

サルディスの教会へのメッセージ：新約聖書ギリシャ語に照らして検証されるプロテスタント教義

聖書の矛盾という視点からプロテスタントの原則を捉える

ヨハネの黙示録の中で、イエスは小アジアの七つの教会に語りかけ、それぞれの教会の霊的な状態に基づいて、称賛、叱責、そして悔い改めへの呼びかけを行っています。中でも、サルディスの教会は、新約聖書の矛盾に照らしてプロテスタントの教義を考察する上で、特にふさわしい事例と言えるでしょう。イエスは黙示録3章1節から3節でサルディスにこう言われています（ギリシャ語：「Καὶ τῷ ἀγγέλῳ τῆς ἐν Σάρδεσιν ἐκκλησίας γράψον· Τάδε λέγει ὁ ἔχων τὰ ἑπτὰ πνεύματα τοῦ θεοῦ καὶ τοὺς ἑπτὰ ἀστέρας· οἶδά σου τὰ ἔργα ὅτι ὄνομα ἔχεις ὅτι κῆς, καὶ νεκρὸς εἶ. γίνου γρηγοῶν καὶ στήρισον τὰ λοιπὰ ἃ ἔμελλον ἀποθανεῖν· οὐ γὰρ εὗρηκά σου τὰ ἔργα πεπληρωμένα ἐνώπιον τοῦ θεοῦ μου. μνημόνευε οὖν πῶς εἴληφας καὶ ἤκουσας 「そして、サルディス教会の天使に書き送れ。神の七つの霊と七つの星を持つ方がこう言われる。『わたしはあなたの行いを知っている。あなたは生きているが、死んでいる。目を覚まして、死にかけの残りの者たちを強めよ。わたしは、わたしの神の前であなたの行いが完成しているのを見つけたのではない。だから、あなたがどのように受け、聞き、守り、悔い改めたかを思い出しなさい。』」

この非難は、生きている (ζῆς) という「名声」(ὄνομα) や評判を持ちながらも、霊的には死んでおり (νεκρός)、その行い (ἔργα) が不完全 (οὐ... πεπληρωμένα - 未完成/未成就) である教会を浮き彫りにしている。改革、聖書のみ、信仰のみを重視するプロテスタントは、聖書への忠実さと活気に満ちた信仰でしばしば評判を得ている。しかし、以下に示すテキスト上の矛盾点 (新約聖書のギリシア語のみから抽出したもの) は、教義が堅固に見えても、サルディスの不完全な行いのように、聖書の完全な証言に及ばない領域を示唆している。これは、「受け継がれ、聞かれた」ことを思い起こし (εἴληφας καὶ ἤκουσας)、警戒し (γρηγοῶν)、悔い改め (μετανόησον) して、残されたものを強化することを求めている。以下では、主要なプロテスタント教義と新約聖書のテキストとの摩擦に焦点を当て、分析をまとめ、まとまりのある文書に整理し、完全性のために、マルティン・ルター (意志の束縛、信仰のみによる義認など)、ジョン・カルヴァン (限定的贖罪、無条件の選びなど)、ウルリヒ・ツヴィングリ (象徴的秘跡) やジョン・ノックス (予定説の強調) などの他の改革者の著作に

影響を受けた矛盾も組み込んでいる。

新約聖書ギリシャ語におけるプロテスタントの中核教義とテキスト上の緊張関係

プロテスタントには様々な宗派がありますが、「五つのソラ」のような原則を中心としています。このセクションでは、これらの原則を新約聖書のギリシア語テキストと照らし合わせ、言葉遣い、文法、構造のみに基づいて、支持点と矛盾点を明らかにします。

1. 信仰のみによる義認 (Sola Fide) – ルターが強調した教義

この教義は、ルターの神学の中心をなすものであり（例えば、ローマ書とガラテヤ書の注解において）、行いによる貢献を一切伴わず、信仰のみによって義とされると主張する。

サポートテキスト: エペソ人への手紙 2:8-9 – 「τῇ γὰρ χάριτί ἐστε σεσωσμένοι διὰ πίστεως · καὶ τοῦτο οὐκ ἐξ ὑμῶν, θεοῦ τὸ δῶρον· οὐκ ἐξ ἔργων, ἵνα μὴ τις καυχῆσθαι. (恵みによって、あなたは信仰を通して救われました... 行いからではありません。)

矛盾: ヤコブ 2:24 – 「ὁρᾶτε ὅτι ἐξ ἔργων δικαιοῦται ἄνθρωπος καὶ οὐκ ἐκ πίστεως μόνον。」 (人は行いによって義とされるのではなく、信仰だけからではありません。) ヤコブは「μόνον」を使って孤立した信仰を否定し、2:21-22 で信仰が行いによって「完全に」(ἐτελειώθη) されることを示しています。

2. 洗礼は象徴的な儀式である (再生をもたらすものではない) – 改革者によって解釈が異なる (例: ツヴィングリの象徴的見解)

ルターとカルヴァンは洗礼を (特に幼児にとって) 恵みを与えるものと捉えたが、多くのプロテスタント (ツヴィングリの影響を受けた人々) は洗礼を象徴的なものと捉えている。

サポートテキスト: ローマ 6:3-4 – 「ὅσοι ἐβαπτίσθημεν εἰς Χριστὸν Ἰησοῦν εἰς τὸν θάνατον αὐτοῦ ἐβαπτίσθημεν...」 (死の洗礼を受けました... 結合を象徴します。)

矛盾点:

- 使徒 2:38 – 「βαπτισθήτω ἕκαστος... εἰς ἄφεσιν τῶν ἁμαρτιῶν」 (罪を赦すためにバプテスマを受けてください。)

- テトス 3:5 - 「ἔσωσεν ἡμᾶς διὰ λουτροῦ παλιγγενεσίας καὶ ἀνακαινώσεως πνεύματος ἁγίου。」(聖霊の再生と再生の洗淨によって救われます。)
- ペテロ第一 3:21 - 「νῦν σφύζει βάπτισμα...」(バプテスマは今... をアンチタイプとして救います。)

提案された決議への対応：「Διὰ」は「再生と更新の洗い」という協調した句を結びつけるものであり、それらを同一視するものではありません。構造は明確な要素を示しています。

3. 聖徒の堅忍（一度救われた者は常に救われる） — カルヴァンの神学における鍵

カルヴァンは、選ばれた者は永遠に存続すると教えた。

サポートテキスト：ローマ人への手紙 8:38-39 - 「οὔτε θάνατος οὔτε ζωὴ... δυνήσεται ἡμᾶς χωρίσαι...」(何も私たちが神の愛から引き離すことはできません。)

矛盾：ヘブライ人への手紙 6:4-6 - 「ἀδύνατον... τοὺς ἅπαξ φωτισθέντας... καὶ παραπεσόντας πάλιν ἀνακαινίζειν...」(悟りを開いたものの墮落した人を新たにすることは不可能です。)

4. 聖餐式は単なる象徴である — ツヴィングリが提唱

ルターは共在説を支持したが、ツヴィングリや多くのプロテスタントはそれを純粹に象徴的なものとみなした。

サポートテキスト：1 コリント 11:24-25 - 「τοῦτο ποιεῖτε εἰς τὴν ἐμὴν ἀνάμνησιν」。 (私の記念にこれをしてください。)

矛盾点：

- ヨハネ 6:53-56 - 「ἐὰν μὴ φάγητε τὴν σάρκα... ὁ τρώγων μου τὴν σάρκα... ἐν ἐμοὶ μένει。」(肉を食べない限り...かじる者は私の中に留まる。)
- 1 コリント 11:27-29 - 「ἔνοχος ἔσται τοῦ σώματος καὶ τοῦ αἵματος... κρίμα ἑαυτῶ ἐσθίει。」(体と血の罪...裁きを食う。)

5. 神のみに直接告白する — プロテスタント思想に共通する考え方

ルターのような宗教改革者たちは、司祭への告解を否定した。

サポートテキスト: ヨハネ第一 1:9 - 「ἐὰν ὁμολογῶμεν τὰς ἁμαρτίας ἡμῶν... ἀφ᾽ ἡμῶν」。 (もし私たちが告白したら…彼は許してくれる。)

矛盾点:

- ヤコブ 5:16 - 「ἐξομολογεῖσθε ἀλλήλοις τὰς ἁμαρτίας」。 (お互いに告白します。)
- ヨハネ 20:23 - 「ἂν τινων ἀφῆτε τὰς ἁμαρτίας ἀφεῶνται αὐτοῖς」。 (あなたが許すなら…彼らは許されたのです。)

6. 最終審判は行いに基づかない — ルターの信仰のみに基づく

ルターは、裁きにおいて行いよりも信仰を重視した。

サポートテキスト: ローマ人への手紙 3:28 - 「δικαιοῦσθαι πίστει ἄνθρωπον χωρὶς ἔργων νόμου」。 (法律の働きとは別に信仰によって義とされる。)

矛盾: マタイ 25:31-46 - 「ἐπείνασα γὰρ καὶ ἐδώκατέ μοι φαγεῖν... ἐφ' ὅσον ἐποιήσατε...」 (私は飢えていた、そしてあなたはあなたがしたのと同じくらい…与えました。)

7. 万人祭司 (階層的な聖職者制度の否定) - ルターの強調点

ルターは、すべての信者は司祭であると教え、聖職者の役割を縮小させた。

サポートテキスト: ペテロ第一 2:9 - 「βασιλείον ἱεράτευμα...」 (王の神権)

矛盾点:

- テモテ第一 5:17 - 「οἱ καλῶς προεστῶτες πρεσβύτεροι διπλῆς τιμῆς...」 (統治する長老たちは二重の名誉に値します。)
- 使徒 14:23 - 「χειροτονήσαντες... πρεσβυτέρους」。 (任命/聖任された長老たち)
- テモテ第二 1:6 - 「διὰ τῆς ἐπιθέσεως τῶν χειρῶν...」 (按手による贈り物)

8. 病者への象徴的な塗油 — 一部のプロテスタントの見解と一致する

祈りによる癒し、身体的な儀式の軽視。

サポートテキスト: ヤコブ 5:15 (部分) - 「ἡ εὐχὴ τῆς πίστεως σώσει...」 (信仰の祈りが救いになります。)

矛盾: ヤコブ 5:14-15 - 「προσευξάσθωσαν ἐπ’ αὐτὸν ἀλείφαντες αὐτὸν ἐλαίῳ... ἀφεθήσεται αὐτῷ。」(彼が油を注いだことを祈ってください... 罪が赦されました。)

9. 靈的賜物の終焉 — ノックスのような一部の改革者が主張した説

奇跡的な贈り物は使徒時代以降に終わった。

サポートテキスト: 1 コリント 13:8-10 - 「προφητεῖαι καταργηθήσονται... ὅταν ἔλθῃ τὸ τέλειον...」(預言は完全なものが来ると止まります。)

矛盾点:

- 1 コリント 14:1、39 - 「ζηλοῦτε... τὸ προφητεῦειν καὶ τὸ λαλεῖν μὴ κωλύετε γλώσσαις。」(預言することに熱心になってください... 異言を禁じないでください。)
- エペソ人への手紙 4:11-13 - 「ἔδωκεν... προφήτας... μέχρι καταστήσωμεν...」(預言者を与えてください... 私たちが一致を達成するまで。)

10. 全的墮落 (人間は恩寵なしには神を求めることができない) - カルヴァンの TULIP の中核

カルヴァンは、罪のために人間は完全に無力であると教えた。

サポートテキスト: ローマ人への手紙 3:10-11 - 「οὐκ ἔστιν δίκαιος οὐδὲ εἷς... οὐκ ἔστιν ὁ ἐκζητῶν τὸν θεόν。」(正義の人は誰もいません... 神を求めている人もいません。)

矛盾: 使徒 17:27 - 「ζητεῖν τὸν θεόν, εἰ ἄρα γε ψηλαφήσαιεν αὐτὸν καὶ εὔροιεν...」(彼を手探りして見つけます...) 潜在的な結果として「εὔροιεν」(見つける)を伴う、探す能力(「ζητεῖν」)を暗示します。

11. 予定説／無条件の選び (人間の反応なし) - カルビンとノックスの焦点

カルヴァンの『キリスト教綱要』にあるように、神は無条件に人を選ぶ。

サポートテキスト: エペソ人への手紙 1:4-5 - 「ἐξελέξατο ἡμᾶς ἐν αὐτῷ πρὸ καταβολῆς κόσμου... προορίσας ἡμᾶς εἰς υἰοθεσίαν。」(設立前に私たちを選んでください... 養子縁組を受ける運命にありました。)

矛盾: ペテロ第二 1:10 - 「μᾶλλον, ἀδελφοί, σπουδάσατε βεβαίαν ὑμῶν τὴν κλησιν καὶ ἐκλογὴν ποιεῖσθαι..."(自分の使命と選挙を確実にするために熱心に...) "Ποιεῖσθαι"(作る)

は、"ἐκλογὴν" (選挙) を確認する人間の行為を暗示します。

12. 意志の束縛 (救済における自由意志の否定) — ルターの有名な著作における教義

ルターは『意志の束縛』の中で、人間は罪のために救済において自由意志を欠いていると主張した。

サポートテキスト: ローマ 7:18 – 「οἶδα γὰρ ὅτι οὐκ οἰκεῖ ἐν ἐμοί, τοῦτ' ἔστιν ἐν τῇ σαρκί μου, ἀγαθόν· τὸ γὰρ θέλειν παράκειται μοι, τὸ δὲ κατεργάζεσθαι τὸ καλὸν οὐ。」 (私は、私の中に、つまり私の肉体の中に、良いものは何も宿っていないことを知っています。なぜなら、意志は存在しますが、善を行うことは存在しないからです。)

矛盾: ピリピ人への手紙 2:12-13 – 「μετὰ φόβου καὶ τρόμου τὴν ἑαυτῶν σωτηρίαν κατεργάζεσθε· θεός γάρ ἐστιν ὁ ἐνεργῶν ἐν ὑμῖν καὶ τὸ θέλειν καὶ τὸ ἐνεργεῖν ὑπὲρ τῆς εὐδοκίας。」 (恐れおののきながら自分の救いを達成しなさい。神は、ご自身の御心にかなうように、あなたがたのうちに働きかけ、意志と行動を与えてくださる方だからです。)
「達成する」とは、神の働きと並んで、人間が「救い」に積極的に参加することを命じています。

13. 限定的贖罪 (キリストは選ばれた者のみのために死んだ) — カルヴァンの教え

カルヴァンは、キリストの死は選ばれた者にとってのみ有効であると主張した。

サポートテキスト: マタイ 26:28 – 「τοῦτο γὰρ ἐστιν τὸ αἷμά μου τῆς διαθήκης τὸ περὶ πολλῶν ἐκχυννόμενον εἰς ἄφεσιν ἁμαρτιῶν。」 (これは罪の赦しのために多くの人のために注がれた私の契約の血です。)

矛盾: ヨハネ第一 2:2 – 「καὶ αὐτὸς ἰλασμός ἐστιν περὶ τῶν ἁμαρτιῶν ἡμῶν, οὐ περὶ τῶν ἡμετέρων δὲ μόνον ἀλλὰ καὶ περὶ ὅλου τοῦ κόσμου。」 (彼は私たちの罪に対するなだめの物であり、私たちだけではなく全世界に対するものでもあります。)
「ὅλου τοῦ κόσμου」 (全世界) は選ばれた人々を超えて広がります。

14. 二重予定説 (神は一部の者を地獄に予定している) — カルヴァンとノックスの著作に示唆されている

カルヴァンの予定説には、選ばれなかった者に対する拒絶も含まれる。

サポートテキスト: ローマ 9:22 – 「εἰ δὲ θέλων ὁ θεός ἐνδείξασθαι τὴν ὀργὴν καὶ γνωρίσαι τὸ δυνατόν αὐτοῦ ἤνεγκεν ἐν πολλῇ μακροθυμίᾳ σκευὴ ὀργῆς κατηρτισμένα εἰς ἀπώλειαν。」 (もし神が、怒りを示すつもりで... 滅びを覚悟した怒りの器を耐え忍んでいたらどうなるでしょうか。)

矛盾: ペテロ第二 3:9-「μη βουλόμενός τις ἀπολέσθαι ἀλλὰ πάντας εἰς μετάνοιαν χωρῆσαι」。(誰も滅びることを望まないが、すべてが悔い改めに至る。)
「Μη βουλόμενός」(その気はない)は、「τινας ἀπολέσθαι」(すべてが滅びる)という神の願望を否定する。

この文書は、新約聖書のギリシャ語における緊張関係を明らかにしており、プロテスタントの強調は改革的ではあるものの、教義を不完全なままにしてしまう可能性があることを示唆している。これは、サルディスが力をつけ悔い改めるよう呼びかけたことと呼応している。